

大学生と  
留学生のための

る  
んぶん

# 論文ワークブック

著／浜田麻里・平尾得子・由井紀久子



## 【本書の特徴】

- \* 日本人も留学生も使える  
初めての本
- \* 日本人にも留学生にも  
役立つ内容
- \* 実際の論文の表現が身につく
- \* 身近な例から書くコツがわかる
- \* ステップに従い無理なく  
論文完成



くろしお出版

大学生と  
留学生のための

# 論文ワークブック

---

浜田麻里  
平尾得子 共著  
由井紀久子



くろしお出版

---



# 目次

この本を使って学ぶみなさんへ .....	v
<ことば>の記号の見方 .....	viii
この本を使って教える方へ .....	viii

## 基礎編 .....

1

1 よく使われる文の形 .....	2
2 よく使われる語と表現 .....	5
2-1 論文で使ってはいけない語と表現 .....	5
2-2 論文でよく使われる語と表現 .....	7
3 引用 .....	9
3-1 引用 .....	9
3-2 要約 .....	11
4 句読点 .....	13
4-1 句点 .....	13
4-2 読点 .....	13
5 表記規則 .....	16
5-1 横書きの場合 .....	16
5-2 縦書きの場合 .....	18
5-3 手書き原稿 .....	18
5-4 ワードプロセッサ原稿 .....	19
6 まとめの練習 .....	20

## 論文編 .....

23

I 論文ってどんなもの? .....	23
1 論文とは .....	24
2 論文の構成 .....	26
3 構成の作り方 .....	29
4 本論のまとめ方 .....	32
5 書いてみよう① .....	43
6 3種類の文 .....	44

7	書いてみよう②	46
8	論文のモデル	48
II	序論	51
1	序論の役割	52
2	背景説明	55
2-1	事物の説明	56
2-2	先行研究の紹介	57
2-2-1	先行研究の概要の紹介	59
2-2-2	先行研究の部分的紹介	61
3	問題提起	64
3-1	問題点を指摘する	64
3-2	疑問を示す	67
4	方向付け	69
4-1	目的の明示	70
4-2	問題解決の方法	71
5	書いてみよう	74
6	全体の予告	75
III	本論	79
1	本論の役割	80
2	論拠提示	84
2-1	データ提示	85
2-1-1	事柄データ	86
2-1-2	数量データ	87
2-1-3	文章データ	90
2-2	意見提示	93
2-2-1	データ解釈	95
2-2-2	考察	96
3	結論提示	100
4	行動提示	105
4-1	部分の予告	106
4-2	部分のまとめ	108

5	論の展開 .....	111
6	書いてみよう .....	115

IV	結び .....	117
1	結びの役割 .....	118
2	全体のまとめ .....	121
3	評価 .....	126
4	展望提示 .....	129
5	書いてみよう .....	132

## 資料編

I	場面別表現集 .....	133
1	図表に関する表現 .....	134
1-1	図表を紹介する .....	134
1-2	数に関する表現 .....	135
1-3	図表を用いて説明する .....	140
1-4	図表に示されたデータの解釈を提示する .....	141
2	資料に関する表現 .....	145
2-1	使用する資料を示す .....	145
2-2	古語や外国語の資料を引用する .....	146
3	調査・実験に関する表現 .....	148
3-1	調査の概要を示す .....	148
3-2	実験の概要を示す .....	150
II	展開の技術 .....	153
1	例を挙げる .....	154
2	対比する .....	156
2-1	類似点を挙げる .....	156
2-2	相違点を挙げる .....	157
3	注目させる .....	159
4	推論を示す .....	161
5	結論の補強 .....	164

Ⅲ 卒業論文、学術論文のために .....	167
1 論文の付属要素 .....	168
1-1 表題 .....	168
1-2 要旨 .....	168
1-3 キーワード .....	169
1-4 目次 .....	170
1-5 付記 .....	170
1-6 注 .....	171
1-7 参考文献 .....	172
1-8 付録 .....	175
2 書いてみよう .....	176

<ことば>一覧 .....	177
---------------	-----

引用文献番号および出典 .....	184
-------------------	-----

参考資料 .....	186
------------	-----

あとがき .....	187
------------	-----

<別冊> 解答編

コラム

1 終わりよければ… 一文末の表現— .....	15
2 論文における「…なら」「…ば」「…と」「…たら」の用法(1) —なら— .....	31
3 論文における「…なら」「…ば」「…と」「…たら」の用法(2) —ば— .....	47
4 論文における「…なら」「…ば」「…と」「…たら」の用法(3) —と— .....	77
5 論文における「…なら」「…ば」「…と」「…たら」の用法(4) —たら— .....	78
6 主語を表す「…は」「…が」(1) —は— .....	83
7 主語を表す「…は」「…が」(2) —が— .....	104
8 「…から」「…ので」「…ため」(1) —Fの文と理由節— .....	110
9 「…から」「…ので」「…ため」(2) —Aの文と理由節— .....	120
10 「…から」「…ので」「…ため」(3) —Oの文と理由節— .....	131
11 「…から」「…ので」「…ため」(4) —まとめ— .....	132
12 「～た」と「～ている」の使い分け .....	152
13 「これ」「それ」「あれ」?どれ? —指示詞の使い分け— .....	155
14 「分類」 .....	166
15 「学生を育てる」指導と「学生が育つのを補助する」指導 .....	176



## この本を使って学ぶみなさんへ

○この本は、次のような人がレポートや論文（以下では2つをまとめて論文と呼ぶ）を書く練習をするために作られています。

- 1 はじめて日本語で論文を書く人
- 2 これまでに何回か論文を書いたことがあるが書き方に自信がない人やもっと上手に書けるようになりたい人

先生と一緒に勉強する場合でも、自分一人で勉強する場合でも、この本を使うことができます。

○この本を使うと、次のようなことを学ぶことができます。

- 1 論文の組み立て方
- 2 論文を書くために知っておかなければならないことばのルール

なおこの本は主に大学レベルの文科系の分野の論文を書くことを目標にしています。

○論文を書くのが上手になるためには…

- 1 他の人が書いた論文をたくさん読みましょう。論文を読みながらこの本で知ったことばのルールや論文の組み立て方が実際にどのように使われているかを観察してみましょう。
- 2 自分が書いた論文をできるだけたくさんの人に読んでもらいましょう。自分が言いたいことが理解してもらえたかどうか、読んだ人に意見を聞きましょう。

この本で論文の書き方をしっかり勉強し、この2つを実行すれば、論文を書くのがどんどん上手になるでしょう。頑張ってください。

○この本は次の3つの部分に分れています。

### 1 基礎編

論文と普通の作文のことばづかいの違いや、。 「 」などの記号の使い方など、論文を書くための基本的なルールを知ることができます。ルールをもうよく知っているという人はこの部分をとばしてもよいでしょう。

### 2 論文編

論文編ではまず「論文ってどんなもの」で論文の基本的な構成とその作り方を学びます。そのあと「序論」「本論」「結び」の3つの順に詳しく書き方を練習します。各々の終わりには「書いてみよう」があります。ここでは練習した内容に基づいて「日本は豊かか」をテーマにして、あるいは自分で自由にテーマを決めたり資料を集めたりして論文を書いてみましょう。指示に従って論文編の最後まで進むと論文を1本完成させることができます。

### 3 資料編

ここでは論文によく使われる表現や論理の展開の方法をまとめて紹介しています。どの論文にも必要な表現というわけではありませんので、あとで必要になったときに練習してもよいでしょう。

## 論文編

論文を書くときの考え方は日常生活におけるさまざまな行動と共通点があります。どんなところが似ているか、☆に示された質問に答えながら考えてみましょう。

☆の質問に対する説明。質問に対する答えがすぐわかる人はここをとばしてもよいでしょう。

説明の中の重要な部分をpointとしてまとめて示してあります。

<ことば>

実際に論文を書くために使う表現を例文と共にまとめたものです。



### 序論の役割

☆大学のバーナーなどで初めて会った人と話るとき、一番最初にどのような話をするか。  
「はじめまして。オヤンです。文学部のマスター1年です。」  
「オヤンです。電気工学科の研究生です。」  
「むー、イムさんって人、知っていますか。隣の留学生さんで对吧ど。」

上の例ではまず、自分が何者かを示し「オヤンです。文学部のマスター1年です」「オヤンです。電気工学科の研究生です」。次にお互いの間に共通の知識を作ろうとしている。「イムさんって人、知っていますか」。

このように、人と人が話をするとき、まずお互いがどのような人間かをはっきりさせ、次にお互いが共通に知っていることが何かを探り、その共通知識を主台に話を進める、という方法がよく使われるのではないかと、もし二人とも知っていることが全然ないときには、早く共通のものを作らなければならないだろう。これはいつか二人がうまくコミュニケーションするために必要な準備である。

論文の場合も同じである。読む人に興味を持ってもらい内容をよく理解してもらうためには、論文の最初の部分で何について書くのかを知らせ、また必要な背景知識を読む人に提供して、読むための準備をしてもらわなければならない。この準備の役割が「序論」なのである。したがって序論の主な役割は次の通りである。

**序論の役割**

A 何について書くのか、どうしてそれについて書くのかをはっきりさせる

B この論文を読むために必要な知識を読む人に示す

このような役割を果たすために、論文の序論はいくつかの部分から構成されている。その論文の例を見てみよう。

**【例1 序論】**

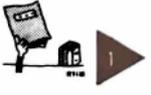
日本は「明治維新からの」90年あまりで、世界の大国になった」と言われている。つまり、戦前は日本の近代化は、明治維新から始まったと考えられているのである。

日本の近代化についてこれまで、一般的であった考え方を紹介している。この論文ではこの一般的な考え方は違う考え方を提示しているのだ。これを知らない読者がなぜこの論文を書いたのかわからない。つまり、「B」この論文を読むために必要な知識を読む人に与える、が行われている。

<モデル>

よく見られる文章のパターンをまるごと取り出しました。

モデルの内容の分析



### 例を挙げる

自分の意見に合うような例を探りて意見と一緒に挙げることで、自分の意見をより強固に提示することができる。

**ことば 20**

日本は1854年から西洋の国々と本格的に国交を始めるようになり、日本の建築の伝統と交差した西洋の建築文化を、建築に意欲的「しかも模倣を厭わずに受け入れた。一例を挙げれば、日本政府は1872年に神奈川の国立大学を東京に設け、機械工学や土木工学などの学科と並ぶ建築学科を置き、内閣内務省を置き、日本人建築家の養成能力を付けた。これが今日の東京大学工学部建築学科の発祥であり、以後建築の技術が大いに磨き込まれた。

**【例2】** 日本は西洋の建築文化を受け入れた。例  
**真具体** 国立工科大学建築学科を設立した。

**ことば 20**

たとえば  
(一) 例をあげれば  
(真体) 例をあげると **真具体**

(1) **真具体** 真体的には  
現代社会はコンプレックス社会と評おにふさわしい状況を迎えた。たとえば、物を買わずとも感動はもちろんだこと、字んたり読まない事感動、あるいは思考感動までもがコンプレックスの動けなしには成長し得ない状況になっている。

(2) **真具体** 示すより例である  
示すものである

○その他にも、17世紀には瓦葺と呼ばれたコンプレックス、這が普及していった。これらの例は、建築の面でも近代化の基礎が打たれたにすぎたことを示すより例であろう。



「生糸売買が41年から激減した」ことを述べるために使うア～エとして適当なものを選びなさい。

- a 生糸売買は41年から激減する。中国動乱の影響もあったようだが、前年の40年に6万金斤を輸入したのに対し、41年には9月7日の取引開始にあたって売買できる生糸は3万金斤であった。42年から輸入はさらに少なくなった。41年の増量は100万だったが、46年に売ることができたのは2765斤だった。1斤は約600グラム。
- b 生糸売買は41年から激減する。中国動乱の影響もあったようだが、前年の40年に6万金斤を輸入したのに対し、41年には9月7日の取引開始にあたって売買できる生糸は3万金斤しかなかった。42年から輸入はさらに少なくなった。41年に100万増量した以外に減少の一方で、46年には2765斤しか取引できなかった。
- c 生糸売買は41年から激減する。中国動乱の影響もあったようだが、前年の40年に6万金斤を輸入したのに対し、41年には9月7日の取引開始にあたって売買できる生糸は3万金斤であった。41年に100万増量した。46年には2765斤売ることができた。

【文庫33】(部分改)

「減少」という現象は物がある状態からない状態へと移行していくことを表しているのです。マイナス方向の表現を用いて「F」の動きを行うよ！ 文、数量が「F」の動き方については、p.134の資料を！ 「図表に関する表現」を必ずすること。

ことば9

プラス方向を目指すタイプ

- (1) 動詞(増量型)
  - 46年に142765斤売ることができた
  - 100万の増量があった
- (2) 動詞 に (も) 減少/減る/落ちる/減る/上る
  - 1992年現在で日本から海外に派遣されている労働者は3万4000人にも上る
- (3) 動詞 を はるかに 増える/増す/上る
  - この場合Yesと回答した読者は106人で、10人を減えた
- (4) 動詞 以上
  - 30%以上の人が行くと考えている



マイナス方向を目指すタイプ

- (5) 動詞 にすぎない/に止まる/に抑えられる/のみである

○15 19歳の非自発的な離職は8.3%にすぎない

- (6) 動詞 しか ーない
- 46年に142765斤しか売ることができなかった
- (7) 動詞 に (も) 減らない/減ばない
- 輸送機、夫婦別居がよいと答えた人は少ない、1割にも満たない
- (8) 動詞 以下/より少ない/未満/足らず
- 動詞 を はるかに 下回る
- 動詞 を 大きく 下回る
- 正答率は30%以上、下数を過かして下回っている

方向性を示さないタイプ

- (9) ー (の) は 動詞 である
- 46年に売ることができたのは2765斤だった
- 15 19歳の非自発的な離職は8.3%である



次のa～eの「F」の文に各自意見をア～イから選べ

例 地方の選挙の不正と中央選管から出向した官僚が占める数は、1,000人に満たない。⇒イ

- a 中央選管から地方に出向している官僚は776人にも上る
- b 官僚が地方出向している事実は、異議で一度簡単に解任されただけにすぎている
- c 東京都36人、兵庫県23人など各道府県で20人を超え、平均でも11人に達する
- d 東京都の36人は例外的で15人以上の官僚を出向する県は半数にも満たない
- e 中央選管から地方の都道府県選管に出向している官僚の数は、東京都36人、兵庫県23人である
- A 多くの官僚が地方出向していることは大きな問題である
- イ 官僚が地方出向していることはあまり問題と聞かない



1 1を参考にして、a～eの下線部分\_\_\_\_\_にア～イの文を割り、

- a 日本は物価が高すぎるのではないかとコメを例にあげて言う。

【コメ1年】(増減)⇒日本：500円、オーストラリア：100円

1 例を挙げる



具体例を身の回りにあわせて、結論を説明する文を書け

例 一 結論 セットメニュー方式ではビジョンが不足する  
⇒セットメニュー方式ではビジョンが不足する。例えば価格設定では食卓にキヤバの生切りが盛り込まれているが、キヤバにはピザやパンが盛り込まれているだけで、同じ価格帯の他のピザやパンについては何十分の一しか売ることができない。

- a 一 結論 現代の生活においてバイオテクノロジーはなくてはならないものである
- b 一 結論 他の文化を理解する場合、目に見えないものを理解するのは難しい
- c 一 結論 日本企業のシステムの中には伝統的な考え方に基づいたものが数多くある

<タスク>

論文の考え方が理解できたかどうか確認する問題です。

<練習>

論文を部分にわけて実際に書いてみる練習です。

<コラム>

間違えやすい文法や論文をまとめるときの考え方などを取り上げています。

この他に巻末には論文編に出てくるくことば>を論文の部分毎にまとめた「<ことば>一覧」が付いています。論文の構成を考えたり実際に文章を書いたりするとき、これを参照すると便利でしょう。

コラム13 「これ」「それ」「あれ」「どれ」？指示詞の使い分け

論文では「それ」「その」よりも「これ」「この」の方が多く使われる。「あれ」「あの」は用いられない。

調査の結果、表のようなアンケートを得た。この結果に基づき、書いている論文には転換した強い風が吹く。これをフュージョン現象という。

また、休日を利用してよいかからないと答えた人の数もまだかなり多い。このように、日本人はまだ余暇の過ごし方がうまくいっていない。

「それ」「その」が使われるのは次のような場合である

1. 対比の意味をあらわすとき

- 10代では賛成と答えた人が過半数を占める。それに対して、20代以上では賛成という答えはほとんど見られない。

2. 他人の論文の内容を説明するとき

- 調査(1989)は日本企業の経営戦略を分析し、その結果日本企業の特殊性を3つ指摘している。